

IFCC 各種委員会参加報告

報告者 氏名： 植田 成

報告者 日本での所属： 旭化成ファーマ株式会社

参加委員会正式名： Committee on Reference System of Enzymes (C-RSE)

会議日： 2015 年 6 月 22 日(月)

会議開催時の学会または行事： EuroMedLab

会議開催場所： フランス、パリ

委員会の概要報告：

1. 膵 Lipase 標準化

(背景)

JSCC からノミネートしたジグリセリド法が候補法として検討されている。基質ストック液、第一試薬、反応開始液の 3 試薬系からなり、基質ストック液と第一試薬を測定日毎に混合して反応液として使用するという操作手順となっている。

(内容)

・国際合同実験の総括

スペイン、独、伊、インド、日本が参加して、2 回の国際合同実験を実施。日本は 1 回目（和光純薬工業(株)）、2 回目（旭化成ファーマ(株)）共に良好な結果を得た。2 回目は、旭化成ファーマで調製した基質ストック液を各施設に送付し、自製基質ストック液と比較した。その結果、独、インドの測定結果が異なっていた。その原因は基質ストック液と第一試薬の混合方法によってミセルサイズに差が認められていることであると推察された。

・今後の進め方

基質ストック液と第一試薬の混合方法の詳細を文章化し（日本）、他の施設で操作結果の再現性が得られるか確認する。同時に、混合液の吸光度以外にミセルサイズを反映する指標があるか調査する。

2. IRMM(Institute for reference materials and measurements) とのコラボレーション

(1) P-AMY

酵素標準物質ロット更新。IRMM で酵素供給候補先をリストアップし、比例互換性試験を実施する。

(2) ALT、CK、LDH の値付け

(背景)

2014 年、IRMM からの入札に旭化成ファーマ（(株)）が応札し、IRMM からの受注を得て、各酵素毎 3000 バイアル製造し IRMM に送付済。

(内容)

値付けには欧州、米国、中国から約 10 施設の参加が見込まれている。3 重測定/日、3 日間の測定が計画されている。

3. その他

IRMM によると ALP 標準物質は 2016 年後半に着手。

以上